
青少年のネット利用実態把握を目的とした調査 第2回アンケート結果

速報版

LINE株式会社

平成29年3月

青少年のネット利用実態把握を目的とした調査

第2回アンケート結果の速報版について

LINE株式会社は、青少年のネットワーク利用の啓発活動の更なる強化およびネット利用上の問題防止に向けた研究のため、青少年のネット利用実態の把握を目的とした調査を実施しています。2016年12月から2017年1月にかけて、東京都教育委員会のご協力を戴き、東京都の公立高等学校、中学校、小学校の生徒・児童6,674名を対象とした第2回アンケート調査を実施しました。この調査は、2016年6月から9月にかけて実施した第1回アンケート調査の結果を追跡・検証したものです。今回の第2回アンケート調査により、中学校・高等学校の生徒5,759名に関するパネル調査を集計しました（この分析において、パネルとして有効であった人数は2,725人です）。本報告書は、このパネル調査の一部を速報版としてとりまとめたものです。LINE株式会社では第1回、第2回のアンケート調査を集計・分析して28年度最終報告書を公表する予定です。

情報リテラシー教育は 生徒のネット利用上の問題の削減に効果

今回のパネル調査の結果は、継続的な情報リテラシー教育が、生徒のネット利用上の問題の経験を減らす傾向のあることを示しています。

1. 情報リテラシー教育とネット利用上の問題

今回の調査では、第1回調査（2016年6～7月＝春学期調査）と第2回調査（2016年12月～2017年1月＝秋学期調査）に基づいて、中学・高校の生徒のネット利用の年度内の時間的な変化について検討しました。時間的な変化は、個人が特定されない形で継続調査を行い、春学期調査と秋学期調査の差分をみています。本報告はこのなかで中学校・高等学校の生徒に対する情報リテラシー教育とネット利用上の問題経験の関係について取り上げます。

春学期の調査では、情報リテラシー教育を受けていない生徒は、知り合いとのネット利用上の問題経験率が18.2%であったのに対して、情報リテラシー教育を受けている生徒では12.1%となり、情報リテラシー教育にネット利用上の問題経験を減らす効果のあることが示唆されていました。なお、本報告で「情報リテラシー教育を

受けていない」とされる生徒（表1および表2で「教育なし」にカウントされる生徒）には、学校で情報リテラシー教育を受け、それを意識していない生徒も含まれます。

今回のパネル調査では、個別の生徒の継続的な変化を見ました。秋学期調査のネット利用上の問題経験率（＝夏休みから秋学期の調査までの間のネット利用上の問題経験率）を比較した場合、春学期調査で情報リテラシー教育を受けた生徒のグループは、春学期調査で情報リテラシー教育を受けていなかった生徒のグループと比較して、ネット利用上の問題経験率が低く出ました（非受講生10.5%に対して受講生8.7%）。これは春学期の情報リテラシー教育の効果が、秋学期に継続していることを示唆しています。

つぎに、春学期調査で情報リテラシー教育を受けていなかった生徒のグループを抽出して分析すると、秋学期調査でも情報リテラシー教育を受けていなかった生徒（つまり春学期および秋学期に情報リテラシー教育を受けなかった生徒）は、秋学期調査のネット利用上の問題経験率が12.0%であったのに対して、秋学期調査までに情報リテラシー教育を受けた生徒（つまり春学期調査では情報リテラシー教育を受けなかったが、その後秋学期までに情報リテラシー教育を受けた生徒）は、ネット利用上の問題経験率が9.2%に下がっていました。

春学期調査で情報リテラシー教育を受けた生徒を抽出して分析しても同様の傾向が見られました。春学期調査

で情報リテラシー教育を受け、その後、秋学期調査までに情報リテラシー教育を受けなかった生徒は、夏休みから秋学期の調査の間にネット利用上の問題を経験した割合が11.8%であったのに対して、春学期調査で情報リテラシー教育を受け、さらに秋学期調査で情報リテラシー教育を受けた生徒のグループでは、ネット利用上の問題の経験率が8.1%に下がっていました。

今回のパネル調査は、いずれの組合せについても継続的な情報リテラシー教育がネット利用上の問題の経験を減らす傾向のあることを示しています。（「表1：継続的な情報リテラシー教育とネット利用上の問題の経験率」）

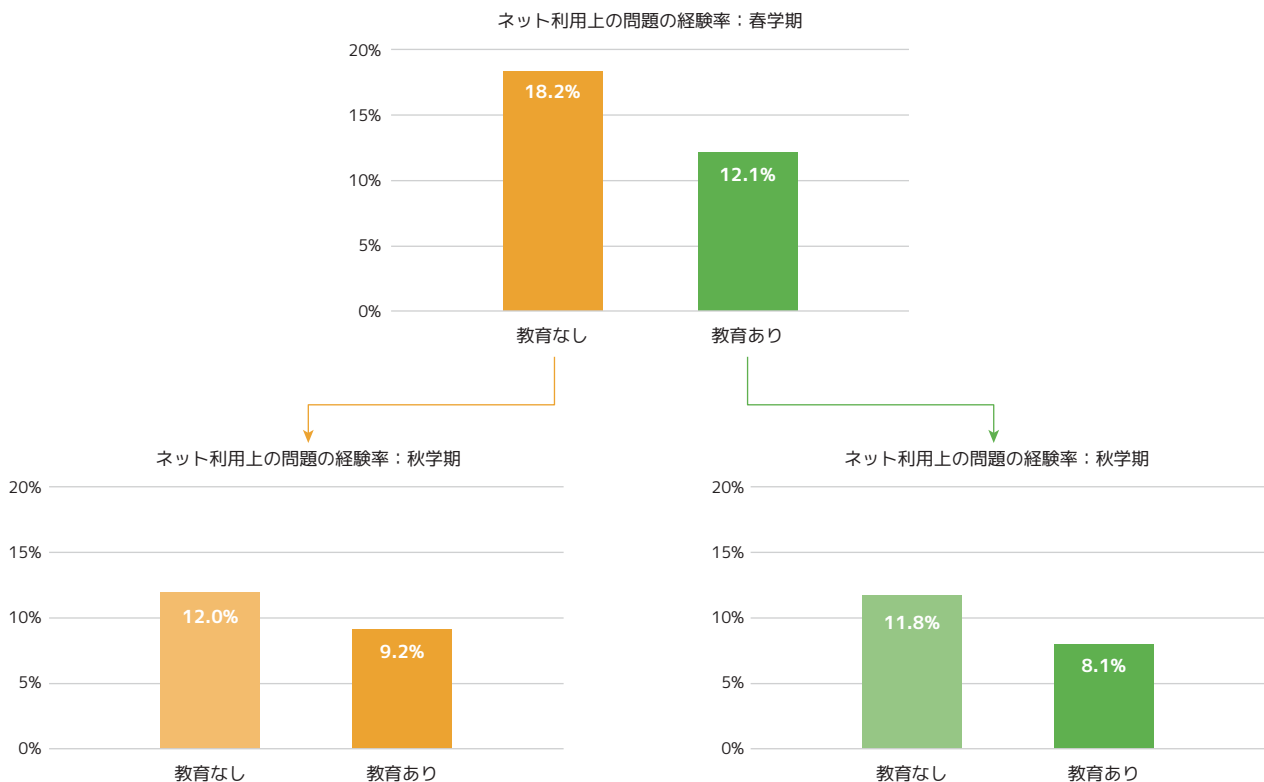
春学期	ネット利用上の問題経験		
	なし	あり	率
教育なし	521	116	18.2%
教育あり	1,835	253	12.1%

秋学期	ネット利用上の問題経験		
	なし	あり	率
教育なし	264	36	12.0%
教育あり	306	31	9.2%
合計	570	67	10.5%

秋学期	ネット利用上の問題経験		
	なし	あり	率
教育なし	284	38	11.8%
教育あり	1,623	143	8.1%
合計	1,907	181	8.7%

「表1：継続的な情報リテラシー教育とネット利用上の問題の経験率」

※「教育なし」には、情報リテラシー教育を受けたが、それを意識していない生徒を含む。



「図1：継続的な情報リテラシー教育とネット利用上の問題の経験率」
 ※「教育なし」には、情報リテラシー教育を受けたが、それを意識していない生徒を含む。

2. ネット利用上の問題経験の有無で区別した情報リテラシー教育の効果

春学期調査でネット利用上の問題経験のあるグループは、おなじく春学期調査で経験のないグループと比較して、秋学期調査までに受けた情報リテラシー教育の効果がより高くなることが分かりました。

「表2：ネット利用上の問題経験の有無で見た情報リテラシー教育の効果」では、春学期調査で情報リテラシー教育を受けていなかった生徒（表①～③）と、情報リテラシー教育を受けていた生徒（表④～⑥）を別々に示しています。まず、春学期調査で情報リテラシー教育を受けていなかった生徒（表①）を抽出した場合、春学期調査から秋学期調査までに情報リテラシー教育を受けた生徒と、これを受けなかった生徒のネット利用上の問題経験率の差を見ると、春学期調査でネット利用上の問題経験のないグループ（表②）では1.3ポイント（＝10.1%－8.8%）の低下であるのに対して、ネット利用上の問題経験のあるグループ（表③）では7.7ポイント（＝19.0%－11.3%）の低下となっており、ネット利用

上の問題経験のあるグループで情報リテラシー教育の効果が大きく出ています。

春学期調査で情報リテラシー教育を受けていた生徒（表④）を抽出した場合も同様の傾向を示しています。秋学期調査までに情報リテラシー教育を実施した場合のネット利用上の問題経験率の低下は、春学期調査でネット利用上の問題経験のないグループ（表⑤）では2.3ポイント（＝10.0%－7.7%）であったのに対して、ネット利用上の問題経験のあるグループ（表⑥）では12.3ポイント（＝23.3%－11.0%）の低下となっていました。

このように、どちらの組合せについても情報リテラシー教育がネット利用上の問題経験を減らす傾向のあること、ネット利用上の問題経験のある生徒に対して行う情報リテラシー教育にも高い効果を期待できることが示唆されています。

1

春学期	ネット利用上の問題経験		
	なし	あり	率
教育なし	521	116	18.2%

2

秋学期	ネット利用上の問題経験		
	なし	あり	率
教育なし	213	24	10.1%
教育あり	259	25	8.8%

3

秋学期	ネット利用上の問題経験		
	なし	あり	率
教育なし	51	12	19.0%
教育あり	47	6	11.3%

4

春学期	ネット利用上の問題経験		
	なし	あり	率
教育あり	1,835	253	12.1%

5

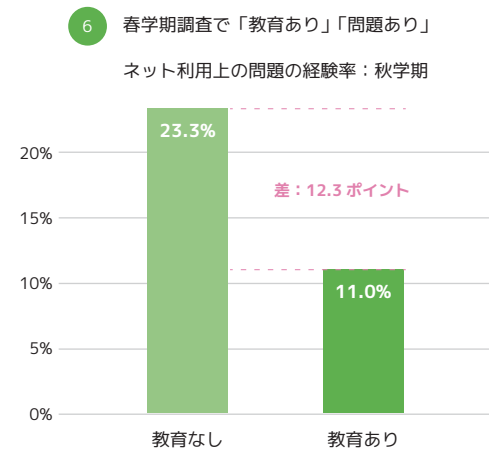
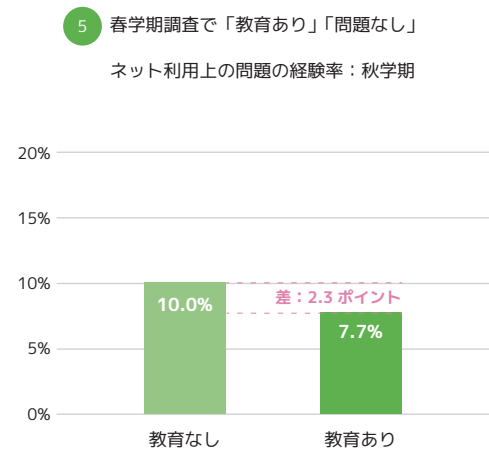
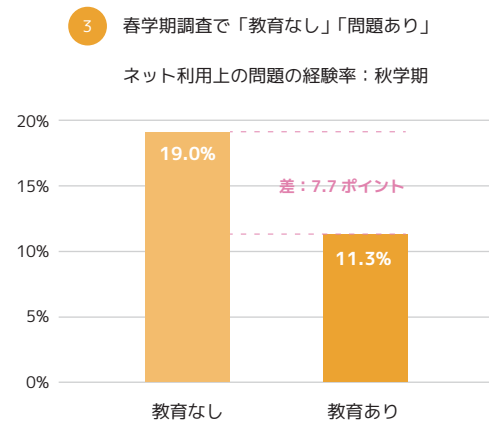
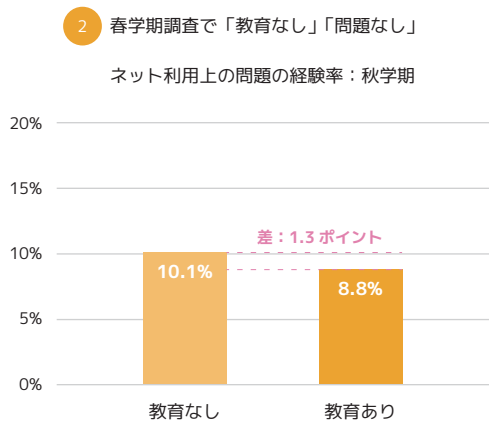
秋学期	ネット利用上の問題経験		
	なし	あり	率
教育なし	251	28	10.0%
教育あり	1,436	120	7.7%

6

秋学期	ネット利用上の問題経験		
	なし	あり	率
教育なし	33	10	23.3%
教育あり	187	23	11.0%

「表2：ネット利用上の問題経験の有無で見た情報リテラシー教育の効果」

※「教育なし」には、情報リテラシー教育を受けたが、それを意識していない生徒を含む。



「図2：ネット利用上の問題経験の有無で見た情報リテラシー教育の効果」

※「教育なし」には、情報リテラシー教育を受けたが、それを意識していない生徒を含む。

青少年のネット利用実態把握を目的とした調査
第2回アンケート結果(速報版)

発行日	2017年3月23日
発行者	LINE株式会社 公共政策室 〒160-0022 東京都新宿区新宿4-1-6 JR新宿ミライナタワー23階
共同研究 研究協力	多摩大学情報社会学研究所 東京都教育委員会
編集協力	一般財団法人情報法制研究所
装丁・デザイン	アラサキデザインスタジオ